

【2020年上半期の救急搬送人員統計（速報値）について】

2020年上半期の救急搬送人員統計（速報値）を取りまとめましたので公表します。

※ 速報値としての公表であり、精査の結果、数値を修正する場合があります。

※ 小数点を含む数値は、小数点第二位で四捨五入して表記。

※ 平均値は、2015年から2019年までの5年間の数値。

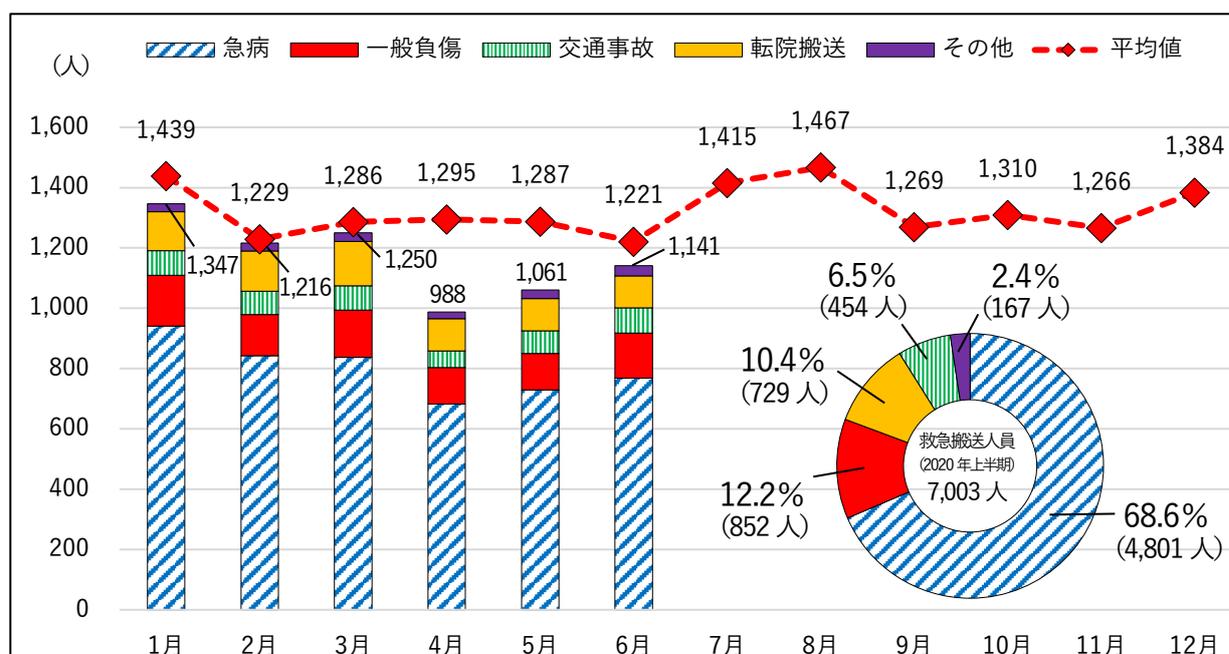
※ 平均値は、各項目ごとに算出しているため、平均値の合計は総数の平均値と合致しません。

1 事故種別

2020年上半期の救急搬送人員は7,003人で、過去5年間（2015年から2019年まで）の平均値と比較すると754人（9.7%）減少しました。

特に、新型コロナウイルス感染症の流行が本格化した4月以降は大きく減少し、4月は過去の平均値と比較して307人（23.7%）減少、5月は226人（17.6%）減少、6月は80人（6.6%）減少となりました。

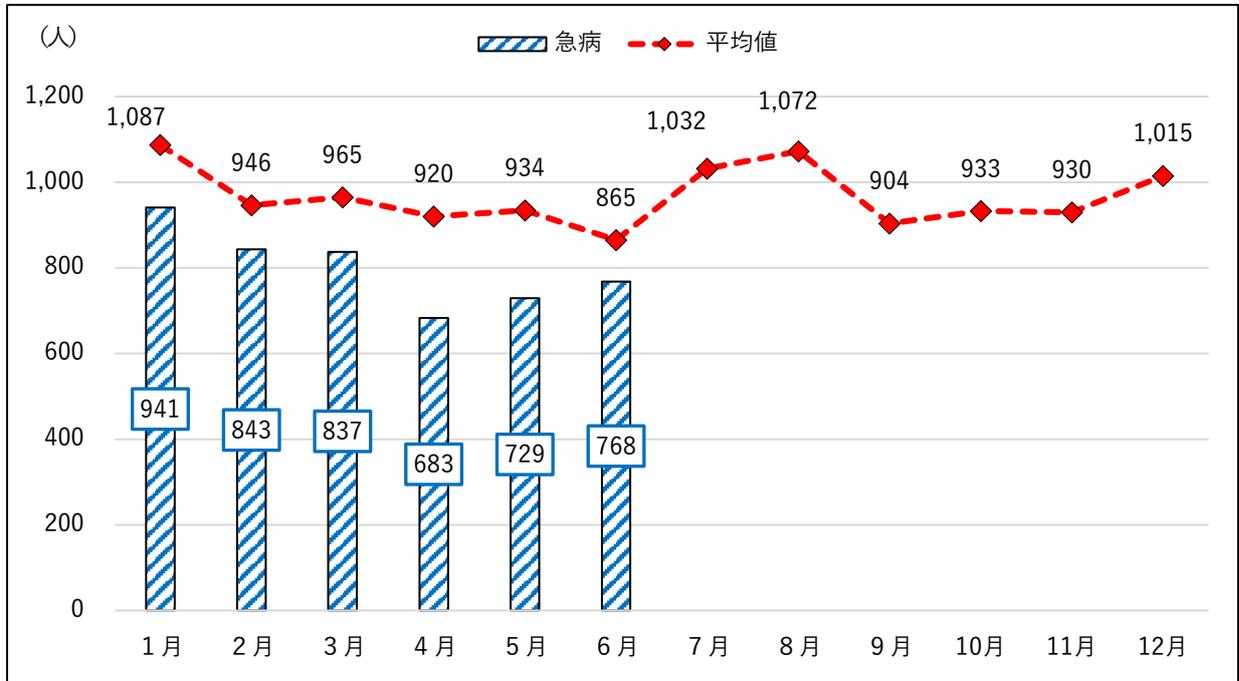
なお、4月の救急搬送人員は988人で、1カ月当たりの救急搬送人員が1,000人を下回ったのは、2003年（平成15年）以来17年ぶりとなりました。



(1) 急病

急病による救急搬送人員は上半期合計 4,801 人となり、平均値と比較すると 916 人 (16.0%) 減少しました。

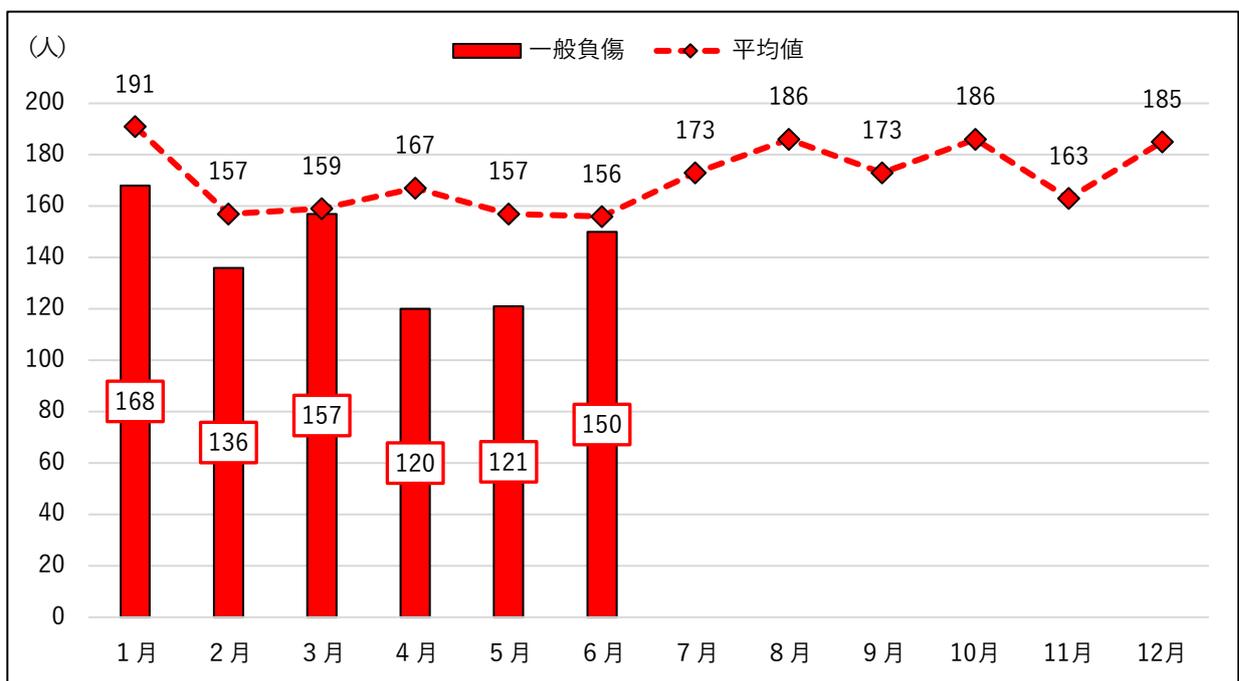
月別にみると、すべての月で平均値を下回っています。



(2) 一般負傷

一般負傷による救急搬送人員は上半期合計 852 人となり、平均値と比較すると 135 人 (13.7%) 減少しました。

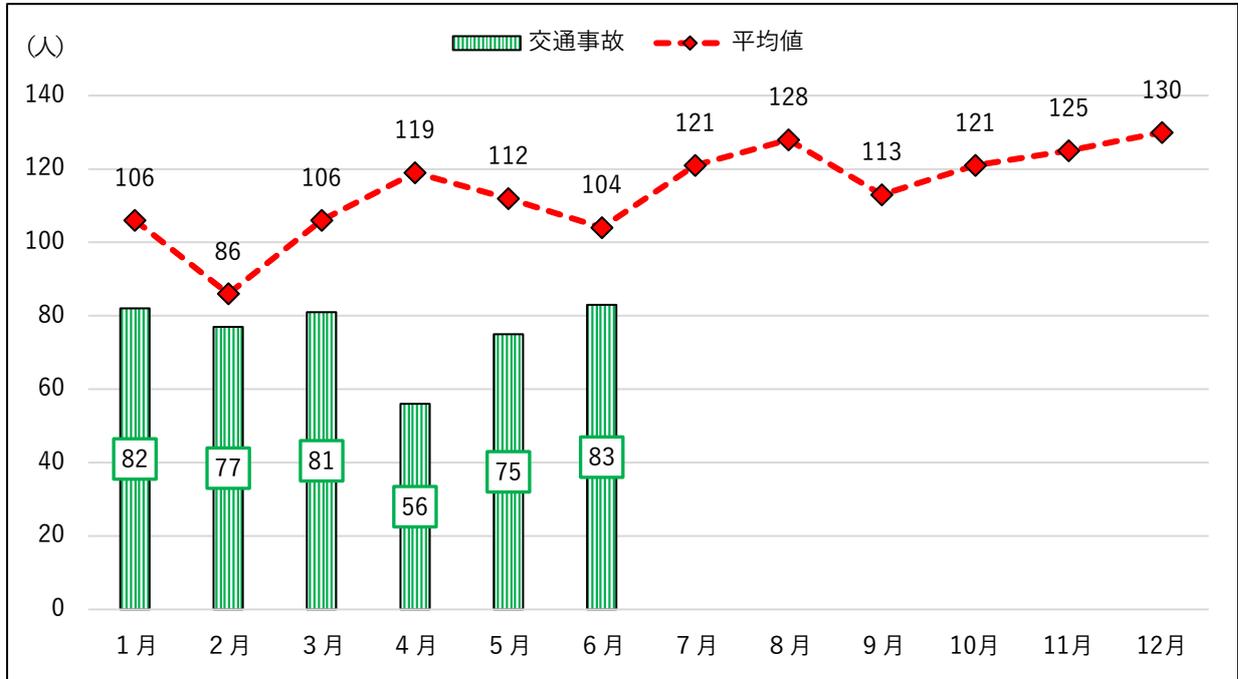
月別にみると、3月と6月はほぼ同数ですが、それ以外は平均値を下回っています。



(3) 交通事故

交通事故による救急搬送人員は上半期合計 454 人となり、平均値と比較すると 179 人 (28.3%) 減少しました。

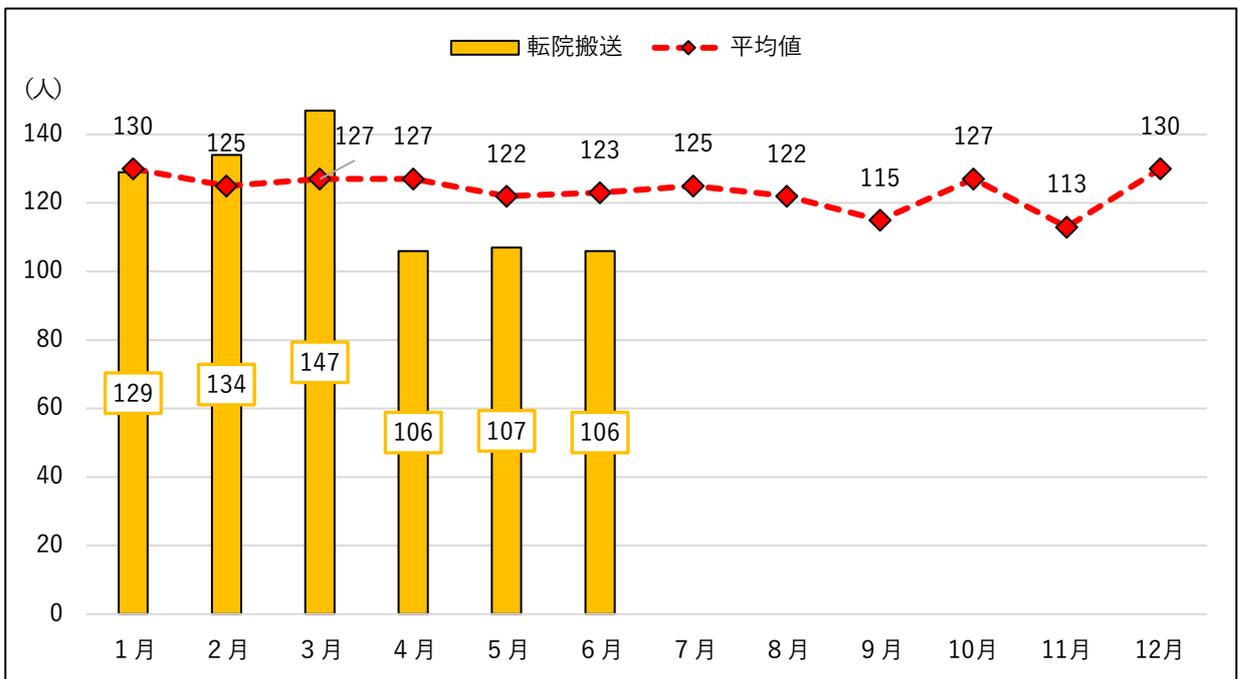
月別にみると、すべての月で平均値を下回っています。



(4) 転院搬送

転院搬送による救急搬送人員は上半期合計 729 人となり、平均値と比較すると 25 人 (3.3%) 減少しました。

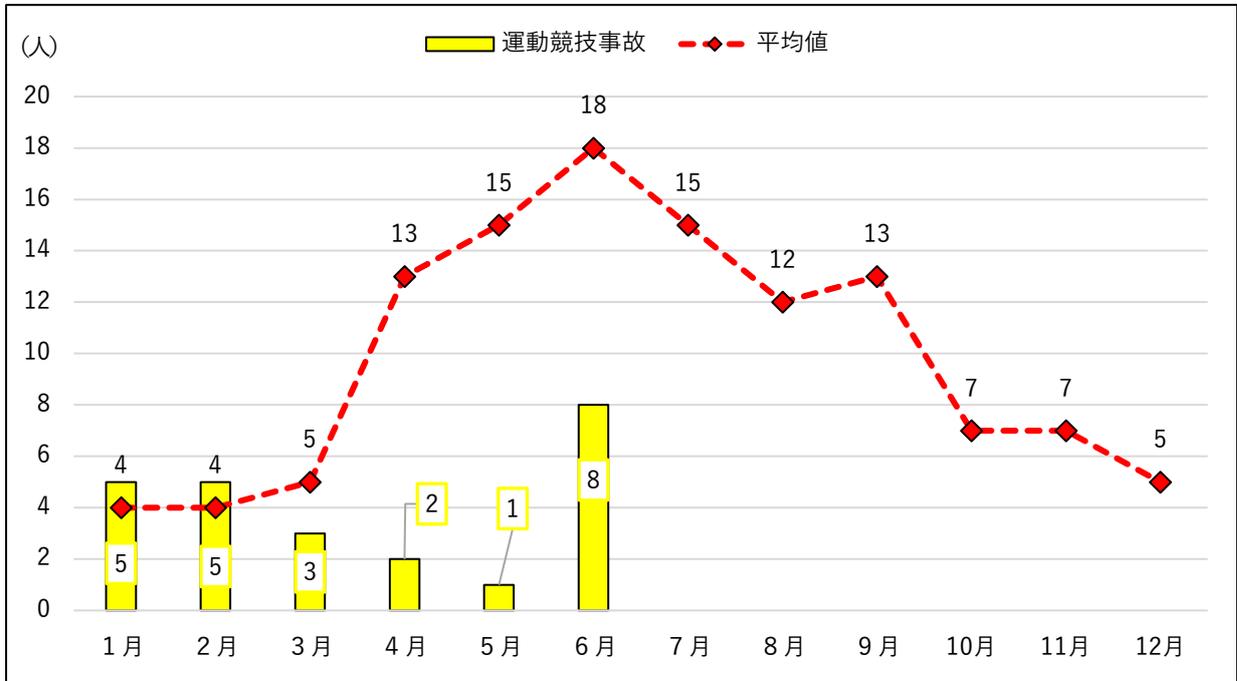
月別にみると、1月から3月は平均値と比較してほぼ同数か上回っていますが、3月から6月は下回っています。



(5) 運動競技事故

運動競技事故による救急搬送人員は上半期合計 24 人となり、平均値と比較すると 35 人 (59.3%) 減少しました。

月別にみると、3月から6月は平均値を下回っています

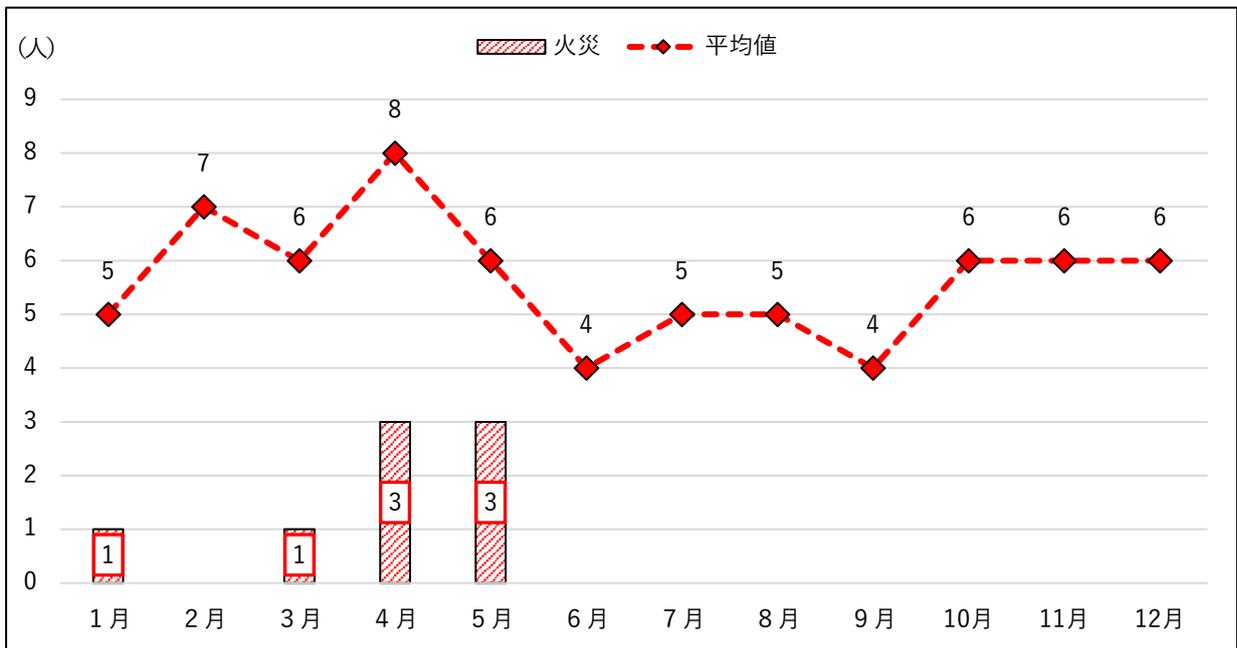


(6) 火災

火災による救急搬送人員は上半期合計 8 人となり、平均値と比較すると 28 人 (77.8%) 減少しました。

月別にみると、すべての月で平均値を下回っています。

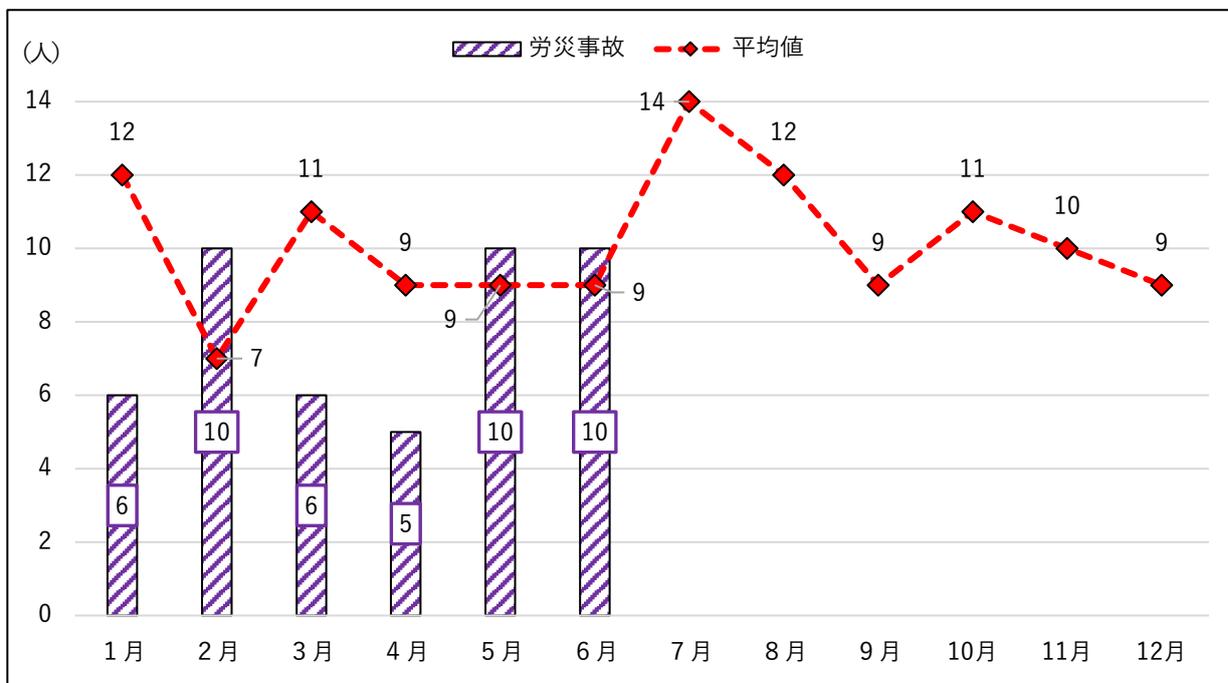
図1-6



(7) 労災事故

労災事故による救急搬送人員は上半期合計 47 人となり、平均値と比較すると 10 人 (17.5%) 減少しました。

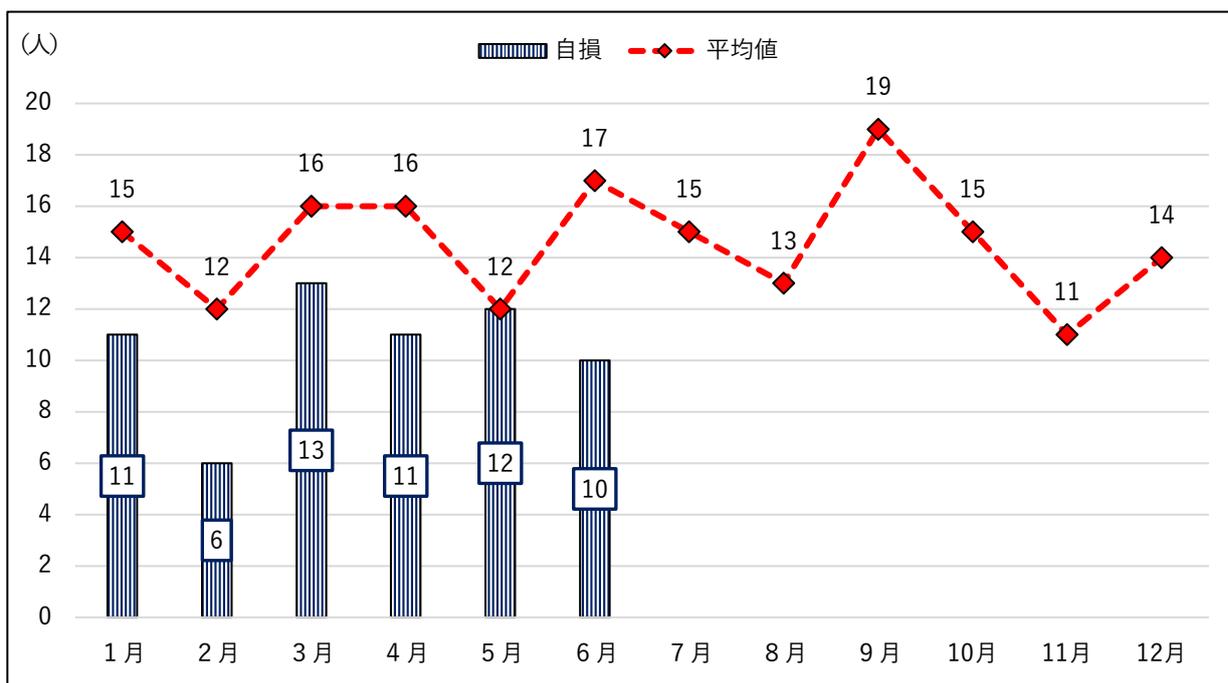
月別にみると、2月、5月、6月は平均値を上回っており、それ以外は下回っています。



(8) 自損

自損による救急搬送人員は上半期合計 63 人となり、平均値と比較すると 25 人 (28.4%) 減少しました。

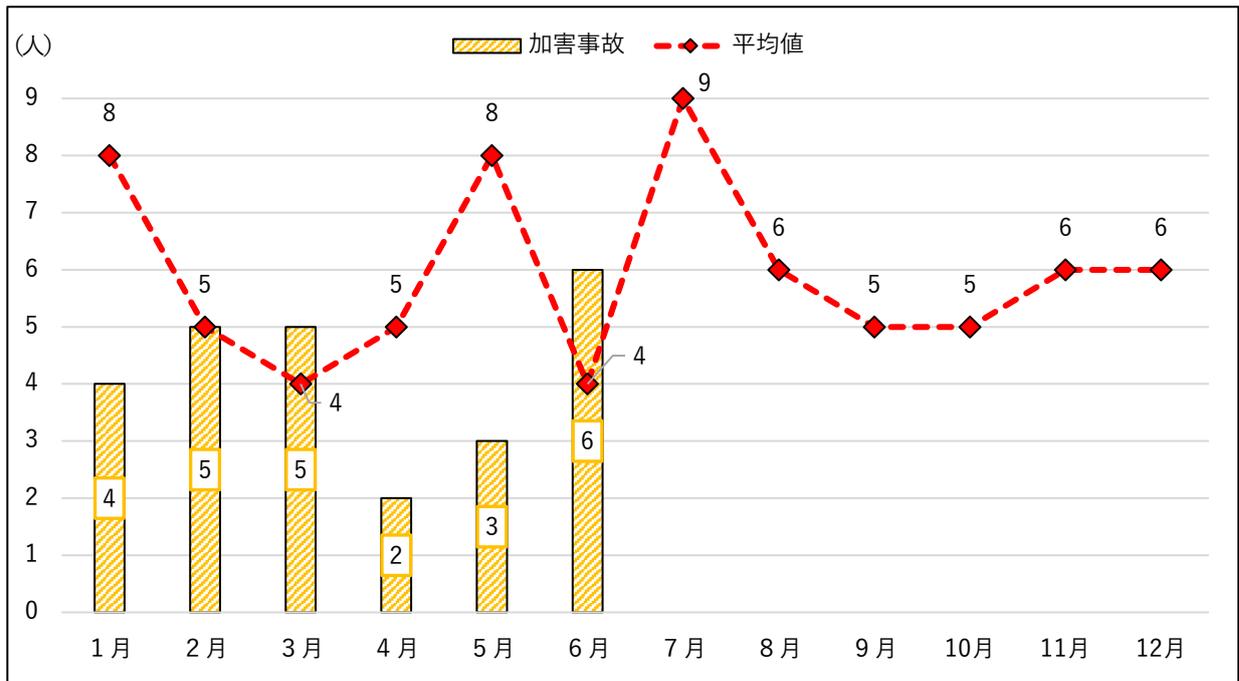
月別にみると、5月は平均値と同数で、それ以外は下回っています。



(9) 加害事故

加害事故による救急搬送人員は上半期合計 25 人となり、平均値と比較すると 9 人 (26.5%) 減少しました。

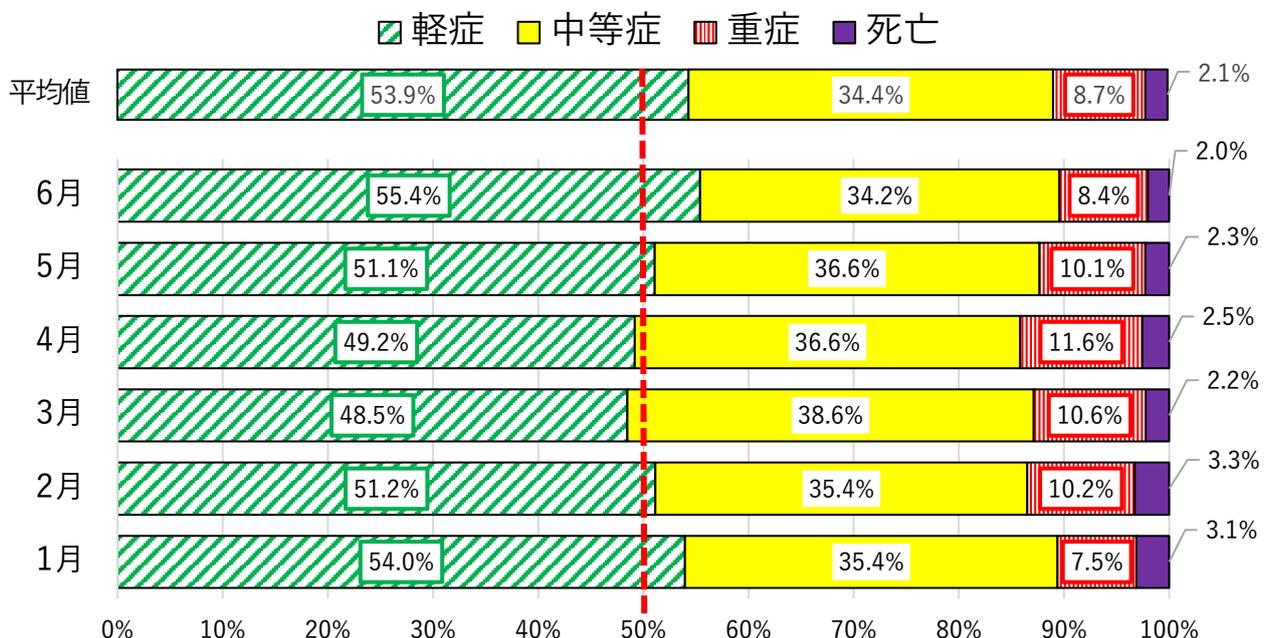
月別にみると、2月、3月、6月は平均値と同数か上回っており、それ以外は下回っています。



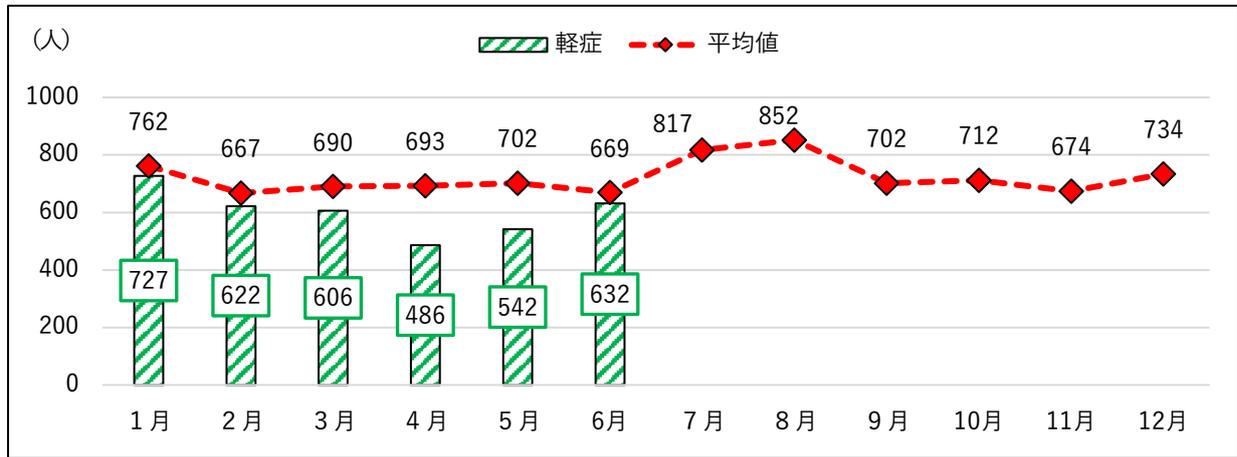
2 傷病程度別

月別の傷病程度別割合をみると、2月から5月は軽症の比率が平均値を下回っているのが特徴で、特に3月と4月は50%を切っています。

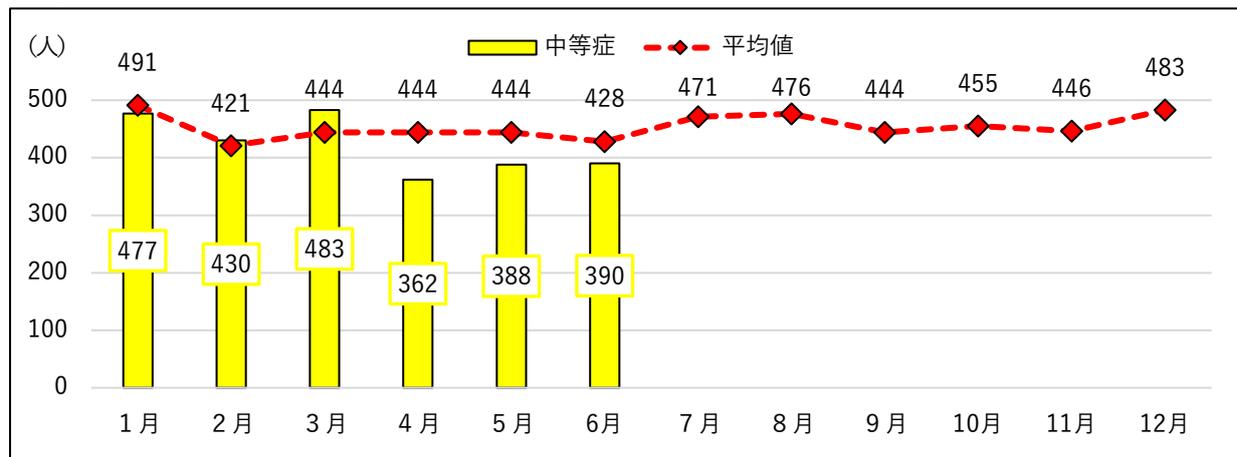
※ 傷病程度は、医療機関搬送後の医師による初診時のもの。



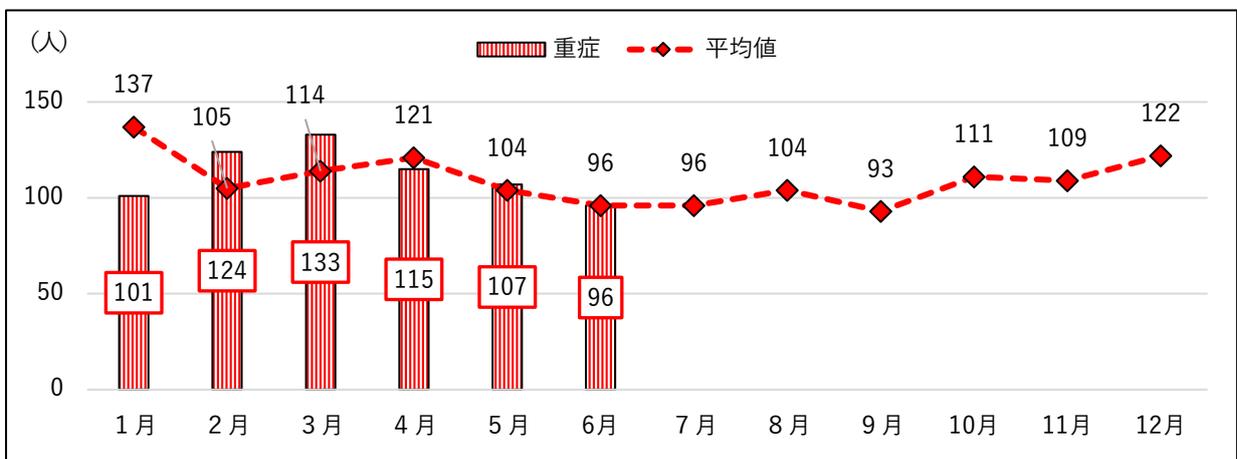
(1) 軽症



(2) 中等症



(3) 重症



(4) 死亡

